

■ City, Culture and Society(CCS)3号発刊

都市研究プラザが編集を行いエルゼビア社が刊行する国際学術誌“City, Culture and Society(CCS)”が昨年末に創刊されたのに続き、Robert Tavernor氏 (ロンドン大学LSE教授)を編集者に迎えた第2号となる特集 ‘The London Plan 2000-2010: A Decade of Transformation’ と、水内俊雄(都市研究プラザ副所長)が編集を担当した第3号、特集 ‘Housing poverty, homelessness, and the transformation of urban governance in East Asian cities’が相次いで発刊された。

第3号では東アジアにおける居住貧困やホームレス、そして都市のガバナンスの変容に関する以下の論文が掲載されている。

Patricia Kennett, Toshio Mizuuchi: Homelessness, housing insecurity and social exclusion in China, Hong Kong, and Japan

Yosuke Hirayama: Neoliberal policy and the housing safety net in Japan

Masami Iwata: New landscape of homelessness in Japan: The role of NPOs and landscape of the problem

Soo-hyun Kim: Issues of squatters and eviction in Seoul: From the perspectives of the dual roles of the state

Limei Li, Si-ming Li, Yingfang Chen: Better city, better life, but for whom?: The hukou and resident card system and the consequential citizenship stratification in Shanghai

Geerhardt Kornatowski: Partnerships and governance: Struggle, cooperation, and the role of NGOs in welfare delivery for the homeless in Hong Kong

Li-Chen Cheng, Yun-Sheng Yang: Homeless problems in Taiwan: Looking beyond legality toward social issues

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/archives/journal.html>

参照

こうした国際学術誌の発刊は、全国紙(日経新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞等)をはじめ、テレビニュースにも採り上げられる等、大きな反響を呼んでいる。

このうち、2010年12月21日の毎日新聞では、「おおさか発・プラスアルファ」で佐々木編集長のインタビュー記事を掲載している。そこで佐々木編集長は、「都市研究の世界的な研究センターを目指して世界に発信するために、国際ジャーナル発行は当然の帰結である」とCCSを通じ、社会に新たなパラダイムシフトをもたらす先覚者としての都市研究プラザの使命を強調している。

また、このような報道は各地のメディアからも発信されており、文化創造を活かした社会包摂、都市の再生という考え方は、大都市に限らず、地方都市からも注目されている。

都市研究プラザは、これらの期待を受けCCSを世界最先端の国際学術誌に育てていく所存である。

■堀口朋亨(都市研究プラザ特任講師)

■ イベント・研究会の予定

各詳細は、都市研究プラザホームページをご覧ください。

2/1 Monthly art cafe  
~28 ...船場アートカフェ 第2ユニット

3/3 第9回アカデミックフォーラムinバンコク  
~4 ...チュラロンコン大学 第2ユニット

3/5 おおよど縁パワーネット・シンポジウム  
...豊崎東会館 第3ユニット

3/6 シンポジウム 京都における創造都市戦略のあり方  
...同志社大学 第1ユニット

3/9 台北サブセンター開設ミニワークショップ  
~11 ...国立台湾大学(台北)他 第3ユニット

3/15 第3回アーツ&アクセス“Social Inclusion Stage”  
~20 ...大阪市立大学他 第1,2ユニット

3/24 第9回アカデミックフォーラムinジョグジャカルタ  
...ガジャマダ大学 第2ユニット

■特別研究員(若手)公募  
G-COE特別研究員(若手)募集(平成23年2月募集分)  
情報⇒ <http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html>

■URP-Newsletter 次号発行予定は、2011年5月です。

URP Osaka City University | Urban Research Plaza  
大阪市立大学 | 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、2006年4月に誕生しました。日本最大の公立大学として、これまでも都市の研究に注力し、実績をあげてきた大阪市立大学が、都市再生へのチャレンジとして立ち上げた全く新しいタイプの研究施設です。「プラザ」という名前が示すように、「都市」をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。大阪や周辺都市、さらに海外の都市に小さいサテライト施設(現場プラザ、海外サブセンター)を設け、教員・院生スタッフが現場や海外に出て研究やまちづくり活動を行っています。また、「プラザ」は、世界第一線の都市研究者・政策家と国際的なネットワークをつくり、国際シンポジウムやワークショップを開催しています。2007-11年度グローバルCOE拠点に採択され、「文化創造と社会包摂に向けた都市の再構築」をテーマに多彩な研究プロジェクトを展開しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 tel: 06-6605-2071  
e-mail: office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

所長 佐々木雅幸 副所長 水内俊雄 岡野 浩 富田常雄  
ユニット長 1U 佐々木雅幸 2U 嘉名光市 3U 水内俊雄 4U 岡野 浩  
<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/>

大阪市立大学 都市研究プラザ ニュースレター 第10号 2011年2月  
編集委員会 佐藤由美、橋羽 愛  
<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/>

key word's  
column

都市の世紀を拓く

【Towards the Century of Cities】

グローバルCOE研究の集大成に向けた国際シンポジウム「文化創造と社会包摂による都市の再興」(2010年12月15日-17日)が成功裏に終わり、「都市の世紀を拓く」大きな1歩を踏み出すことができた。

このシンポジウムは、疲弊した大都市を再生すべく、人文・社会科学分野の既存理論を問い直し、都市研究の新たな地平を切り拓くことを目的としたものである。とりわけ、グローバル都市論に代わって21世紀都市論の中心に躍り出た「創造都市論」を「社会的包摂」の視点から鍛えなおすことに焦点を当てたものである。そこで世界13カ国から当該分野の第一線の研究者と、アジアを中心とした都市研究プラザの7つの海外サブセンターの研究者を招き、若手研究者が取り組んだ調査や多様な社会実験の経験を総括して理論的討論の場に投げ返しつづ、アジアに視点をのいた新たな都市論を討究するアリーナが構築されることになった。

シンポジウムの最終セッションにおいて、この場で展開された新たな都市研究の舞台を継続的に発展させるために、Association for Urban Creativity(AUC:都市創造性学会)の設立が提案され、満場一致で採択された。2011年度にはその第1回学会が開催されることになる。

現下のシステム転換期に登場してくる先端的な都市モデルを理論的に鍛え、その政策実践を客観的に分析し、様々な貴重な経験と情報を交流する「場」として、2010年より国際学術ジャーナルCity, Culture and Society(CCS)を創刊しており、AUCとCCSとが両輪となって、確実に新しい都市研究の幕開きをもたらされるものと確信する。

佐々木雅幸(都市研究プラザ所長)

The international symposium “Urban Regeneration through Cultural Creativity and Social Inclusion” (Dec. 15-17, 2010), which aimed at bringing together all the Global COE research, was successfully concluded and a major step was taken “Towards the Century of Cities.”

This symposium had as its goals the reexamination of existing theories in the human and social sciences and the opening up of new horizons in urban research that will help in the rebuilding of decaying major cities. In particular it focused on reorganizing the discourse on ‘creative cities,’ which has supplanted global cities discourse at the core of 21<sup>st</sup> century urban theory, from the perspective of ‘social inclusion.’ For that, front ranking researchers in related disciplines from 13 countries around the world and researchers from the 7 overseas sub-centers of the Urban Research Plaza, focused mainly on Asia, were invited, and an arena for debate and research for new urban theories focused on Asia was created, with young researchers summarizing their experiences from the surveys and various social experiments they have dealt with, and throwing them back into the ring for theoretical debate.

In the last session of this symposium, in order to continue developing a research platform for the new urban research that was developed here, the establishment of an international Association for Urban Creativity (AUC) was proposed and was unanimously adopted. The first conference of this new association will be held in 2011.

As a ‘venue’ for the theoretical forging of groundbreaking urban models that are appearing within the transition of the present system, objective analysis of their policy implementation, and exchange of all sorts of valuable experience and information, the first issue of the international journal City, Culture & Society (CCS) was published in 2010, and we are confident that the AUC and CCS working in tandem are certain to open a curtain on new urban research.

Masayuki SASAKI (Director, Urban Research Plaza)



# 特集 第1回 国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」 国際学術シンポジウム「文化創造と社会包摂による都市の再興」

都市研究プラザは、12月15日(水)から3日間にわたる国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」、国際学術シンポジウム「文化創造と社会包摂による都市の再興」を大阪国際交流センター(共催)において開催した。マスコミによる報道もあり、3日間合計約800人の参加者を集めた。

初日はまず、西澤良記・大阪市立大学長による開会挨拶、平松邦夫・大阪市長による来賓挨拶が行われた。市長は世界の大都市が向かうべき方向や採るべき政策が、大阪において議論され、世界に向けて発信することの意義について語られた。次に、都市研究プラザ所長の佐々木雅幸により、本シンポジウム趣旨について説明が行われた。

## セッション1: 基調講演 文化創造と社会包摂による都市の再興を語る Session1: Urban Regeneration through Cultural Creativity and Social Inclusion Keynote Speech

シンポジウムの最初のセッション1では、都市研究の先端を歩んでいる3人の世界的な研究者による基調講演が、水内俊雄(都市研究プラザ副所長)の進行で進められた。

シャロン・ズーキン氏(ニューヨーク市立大学教授)は、ニューヨーク市の創造地区の生成・発展・転移について、歴史的に異なる時代を反映するいくつかの文化地区からジェントリフィケーションの文化史を描いた内容を語った。創造地区は政策的支援からは独立した自然発生的な空間であるが、時代は異なっても生産空間から消費空間を経て名声空間へ変貌する共通点を持ち、その空間と住民、芸術家のために展開された自然発生的なパブリック・アートがその創造地区を表現する装置から名声を求め資本投資を導くビジュアル・サインとして変わっていく過程が繰り返されていると、ニューヨーク市の創造地区の展開を特徴づけた。

リリー・コン氏(シンガポール国立大学教授)は、創造経済を担っている労働力に焦点を当て、創造経済の言説を解析する講演を展開した。創造階級を構成する労働者は従来の雇用統計に現れず、今までの企業中心、雇用中心の経済社会政策をもっては対応しにくい。自営、フリーランサー、独立雇用の形態が多く、安定的な収入がなく、セキュリティ・ネットからも外されることが多い。したがって経済社会政策においても新しい方法論とアプローチを必要とするが、シンガポールは、芸術教育を強化した学校教育、技能習得によりキャリアと創造性発揮に力を入れる職業訓練、中間支援組織の創出と強化などに重点をおいた政策プランが実施されていることが紹介された。最後に、このような労働形態が創造経済の不安定さを広げることにならないように、ソフトで柔軟に介入する政策が求められると結論を述べた。

## Program

Sharon Zukin (Professor, Graduate Center of the City University of New York)  
(Found)Public Art: Tracing the Life Cycle of New York's Creative Districts  
Lily Kong (Vice President, National University of Singapore)  
From precarious labor to precarious economy? Planning for precarity in Singapore's creative economy  
Takashi Machimura (Professor, Hitotsubashi University)  
Power and Openness: Appropriating City Space for Re-creating "the Urban"  
Facilitator: Toshio Mizuuchi (Professor, Osaka City University)

町村敬志氏(一橋大学教授)は、東京の代々木公園の歴史を顧みながら、開かれた空間の変容と権力介入のあり方との相互関係を語った。代々木公園は1960年代にはオリンピックの選手村から左翼運動の集会場へ、以後、環境運動の宣伝の場、移民の溜り場、族文化の表現の場へと様々な変容を遂げてきているが、行政が介入をしはじめてからは徐々に公園の開放性をなくしてしまう現象が現れる。その反面、権力が開放性の維持を保障してきた側面もあるとして、誰が空間に対する権力や権利を持つのかによって開放性の姿・性質も変わり、都市空間の開放性は結果でなく社会的に誕生した過程であると結論づけて講演を終えた。

■金 淳植(G-COE特別研究員)



シャロン・ズーキン氏による基調講演

The opening session, titled "Urban Regeneration through Cultural Creativity and Social Inclusion," was held on Dec. 15 (Wed.). This consisted of the conference opening ceremony and the keynote addresses, and there were greetings, both congratulatory and expectant, and an outlining of the conference from Dr. Yoshiaki Nishizawa (president Osaka City Univ.), Mr. Kunio Hiramatsu (mayor of Osaka), and Prof. Masayuki Sasaki (director of the Urban Research Plaza). In the keynote addresses, the contents of groundbreaking urban research dealing broadly with creativity and creative districts, urban space, and urban policies were introduced by Prof. Sharon Zukin, Prof. Lily Kong, and Prof. Takashi Machimura, and the current situation of urban regeneration in America, Asia, and Japan were heatedly discussed.

# SPECIAL The 1st International Roundtable Meeting 'Towards the Century of Cities' International Symposium 'Urban Regeneration through Cultural Creativity and Social Inclusion

## セッション2: 招待講演 新国際ジャーナルによる大阪からの発信 Session2: Perspectives from the New Journal 'City, Culture and Society' Plenary Speech

12月15日(水)午後行われた第2セッションでは、「新国際ジャーナルによる大阪からの発信」をテーマに、世界から評価の高い国際ジャーナルに多数携わっている学者や出版界の専門家を招き、岡野浩(都市研究プラザ副所長)のコーディネートで、「City, Culture and Society(CCS)」の展望について熱く論じられた。

三木律子氏(エルゼビア・ジャパン社代表取締役)はエルゼビア社の活動を紹介し、日本の社会科学が国際ジャーナルへの発信力が非常に弱いという現状を示し、CCSはここに介入するという意欲的試みであることを指摘した。

フランソワ・コルベール氏(HECモントリオール教授)は、自身が編集主幹を務める国際ジャーナル「International Journal of Arts Management」の経験に基づいて、極めて実践的な提言を行った。アートや文化に関する研究分野は、現在では過剰供給の状態にあるために、CCSにはジャーナルのねらいや焦点を明示すること、つまり、競争相手となるジャーナルを調べ、それらとCCSを差別化した上で、目指すべき方向性を見出すことが何より必要であると強調した。

アンディ・プラット氏(ロンドン大学キングスカレッジ教授)は、昨今の都市研究が文化分析と社会・経済分析と重なり合い、大きく再編成されていることを指摘した。この混淆から多種多様な都市研究が展開されたが、CCSにとっては、そこで十分に掘り下げられていない課題が重要になるとし、それは、(1)グローバル・サウスの都市研究、(2)英米圏中心の理論生産、(3)「弱者」の都市論、インフォーマルまたは利潤追求のためではない都市論、の3つの研究課題を提示した。

申鉉邦氏(ロンドン大学LSE Lecturer)は、次世代の研究者の挑戦としての中国のネオリベリズム研究に言及した。ネオリベリズム都市論を西洋の経験に基づいて一般化せずに、中国またはグローバル・サウスにおける諸都市のローカルな経験を、国家の計画や介入をもふまえて、マルチスケールで実証する必要性を強調した。それゆえに、CCSにはアジアの国際ジャーナルとして世界に発信するよう訴えた。

最後に、林正徳氏(釜山大学名誉教授)は、問題提起というかたちで、研究が都市というスケールにのみ特化すること



セッション2の講演者の面々

への疑問点を提示した。韓国での政策立案という自らの経験から、創造都市論における(1)国家のマクロ経済への配慮のなさ、(2)都市の規模・サイズへの関心の不足、(3)既存の産業を生かした地域開発モデルとしての不十分さを指摘した。

## Program

Ritsuko Miki (Representative Director, Elsevier Japan K.K.)  
Elsevier-Open to Accelerate Science  
François Colbert (Professor, HEC Montreal)  
City, Culture and Society Journal: the Place for Arts Management  
Andy C Pratt (Professor, King's College, University of London)  
Research Horizons  
Hyun Bang Shin (Lecturer, London School of Economics and Political Science, University of London)  
The Rise of China Inc. and Neoliberal Urbanization: the challenges for the next generation of urban scholars  
Jung Duk Lim (Professor Emeritus, Pusan National University)  
Some Thoughts on Urban Studies Towards the Century of Cities  
Coordinator: Hiroshi Okano (Professor, Osaka City University)

質疑応答では、CCSの発展には欠かせない主題について意見交換され、その意義が確認・共有された。ひとつは、雑誌の質やインパクトファクター(被引用率)を高めること。もうひとつは、学知と市民知とが邂逅する実験場として、研究者だけではなく、現場の実務家が積極的に論文を投稿できるように体制を創り上げることである。最後には、まとめとして、フロアから佐々木雅幸(都市研究プラザ所長)が、CCSの発刊が英語の世界に対して大阪から「挑戦的な船を出航させる」と抱負を述べた。

■崔 宇 (G-COE特別研究員)

■北川真也(G-COE特別研究員)

In the first day's second session, with the theme "Perspectives from the New Journal 'City, Culture and Society'" the future prospects for CCS were heatedly discussed under the coordination of Prof. Hiroshi Okano, vice director of the Urban Research Plaza.

Each of the speakers discussed how CCS is different from other journals, its role as an Asian-based international journal dealing with areas not adequately addressed by existing research fields, and made valuable proposals for setting the direction of CCS. At the end, Prof. Masayuki Sasaki, director of the Urban Research Plaza, emphatically declared that the publication of CCS is a challenge to the English-speaking world from Osaka which should liberate new energy for research.



セッション3: 専門家会議  
都市の創造性を再考する

Session3: Rethinking Urban Creativity Round Table

12月16日(木)午前、セッション3「都市の創造性を再考する」が開催された。コーディネーターは、長尾謙吉(経済学研究科教授)が務めた。本セッションでは、先進諸国の創造産業に関する検討を通して、学界においても政策の世界においても強い関心がもたれるようになった一方、やや明るい未来論に傾斜しかねない「創造性」に対して批評的かつアカデミックな議論が展開された。



セッション3の会場風景

報告は4本行われた。まず、ルチアーナ・ラツェレッティ氏(フィレンツェ大学教授)は、フィレンツェの創造クラスターに属する地元アクターたちが、ヨーロッパ全土で使用されている価値の高い芸術作品を保護する「アブレーティブレーザーシステム」という新技術の開発を行った事例を紹介した。そして、アイデアとイノベーションの誕生において文化が役割を果たしていくためには、思いがけない発見や異種混交を実現する「文化の創造的な能力(CCC)」が重要になると論じた。

次に、半澤誠司氏(明治学院大学講師)は日本のゲーム産業とテレビ番組制作業の産業集積を事例に、文化産業の不確実性の本質が過小評価されていることを指摘した。文化産業集積の理論では、製造産業で伝統的に論じられているような効率的な取引や信頼構築のような集積利益よりも、企業の空間的集積がもたらす「冗長性」「非効率」への耐性こそが、創造的な製品を生み出すために不可欠であると論じ、その上で文化産業の集積は短期的には個別企業が耐えられない知識検証費用を吸収し拡散させる手段と位置づけた。

続いて、パトリック・コアンデ氏(HECモントリオール教授)は、新しい知識と革新的なアイデアが①創造的な個人から構成される「アンダーグラウンド」、②創造的・文化的な企業や組織といった公式制度を指す「アッパーグラウンド」に加えて、③コミュニティ等による共同作業レベル「ミドルグラウンド」という3つの層を通して出現することを、バルセロナとモントリオールを事例に提起した。とりわけ「ミドルグラウンド」は、イノベーションに先立つ知識伝達と学習のために必要な知識に共通のプラットフォームや使用原則をデザイン

する役割として重要になることを強調した。

最後に、アンディ・プラット氏(ロンドン大学キングスカレッジ)は、リチャード・フロリダがいう「創造階級」が集まれば創造都市になるとは限らないとするセッション1での提起を受けて、特定の階層の集積化が、結果として「富と格差」という新たな問題を生み出している可能性を指摘した。「不平等は都市の成長にとって不要」——創造性を生み出していくためには、新自由主義的な発想を避けつつ雇用や働き方から文化を生産していく側面の検討が、不平等を緩和し都市の再興につながると論じた。

Program

- Luciana Lazzeretti (Professor, University of Florence)  
Technological Innovation in Creative Clusters, The Case of Laser in the Conservation of Artworks in Florence
- Seiji Hanzawa (Lecturer, Meiji Gakuin University)  
Redundancy, "Creative" Innovation and Agglomeration: Japanese Home Videogame and Television Program Production Industries
- Patrick Cohendet (Professor, HEC Montreal)  
Rethinking Urban Creativity: Lessons Learned from Barcelona and Montreal.
- Andy C Pratt (Professor, King's College, University of London)  
The Cultural Contradictions of the Creative City
- Coordinator: Kenkichi Nagao (Professor, Osaka City University)

総合討論では、都市の創造性について「創造的格差」や「新自由主義」を鍵にフロアと報告者との間で白熱した議論が展開された。討論では、フロリダ理論への批判的見解が目立った一方、ラツェレッティ氏による「フロリダによる人的資本の発見は忘れてはならない」とする意見が印象的であった。 ■杉山武志(G-COE特別研究員)

During Session 3 on the morning of Dec. 16 (Thu), there were reports on (1) the importance of 'culturally creative skills' that can bring about unexpected discoveries and a mixing of different varieties; (2) the need to put up with 'redundancy' in the concentration of cultural industries; (3) the importance of jointly undertaken projects in the 'middleground,' the community in between the 'underground' and the 'upperground'; and (4) the fact that a debate is important over what is 'universal' and what is 'situated' in the discourse surrounding cities. Through a consideration of the creative industries in the developed countries, a critical and academic discussion has developed towards the 'creativity' that is always biased towards an optimistic view of the future. In the discussion, there was heated debate around urban creativity triggered by 'creative disparities' and 'neo-liberalism.'

セッション4: 専門家会議  
アジアにおける都市研究ネットワークの構築

Session4: Networking the Asian Urban Studies Round Table

12月16日(木)午後、中川眞(都市研究プラザ兼任研究員/文学研究科教授)のコーディネートで、セッション4「アジアにおける都市研究ネットワークの構築」と題した専門家会議が開かれた。これは、都市研究プラザのアジア太平洋地域に展開する海外サブセンターが集う初のラウンドテーブル会議であり、ソウル、上海、台北、香港、バンコク、ジョグジャカルタ、メルボルンの各海外サブセンターから順に、現地における貧困、住宅、移民といった都市問題への取り組みやコミュニティ・アートの事例が報告され、多様なアプローチが共有された。

徐鐘均氏(韓国都市研究所主任研究員)は、ソウル南部、京畿道の安養パブリックアート・プロジェクト「スモールビジネス・ビッグチャンス」を紹介した。賞金総額2万ドルを用意したコンペ形式で、大規模再開発のなか立ち退き補償を求めるだけの地元小企業の失望を希望に転換する試みであることを紹介した。

陳映芳氏(華東師範大学教授)は、上海へ急速に流入する都市移住者のエスノグラフィー調査から公式の住宅市場に参入できない層の生活実態を紹介した。狭小な共同住宅から路上に至るまで多様な居住形態において、家族的な相互扶助や統計上不可視のインフォーマル経済が大きな役割を果たしている事実を指摘した。

黄麗玲氏(国立台湾大学助教授)は台北市大安区および萬華区の公園再開発の事例をもとに、参加型計画によりコミュニティ・スペースが再構築された過程には1.地域の歴史の再発見と2.新たな都市アイデンティティの構築の同時進行がみられ、芸術は手段か目的か?という根源的な問いに立ち返ることとなることを指摘した。

鄧永成氏(香港浸会大学教授)は香港とムンバイの比較から理論的課題を提起。従来の地域研究や都市の発展モデルでは外部からの「客観的」視線を前提とする西洋中心主義的な限界があるとして、アジア諸都市の特異性とポスト植民地主義の複合的な相互作用をみる「内から外へ」の理論的



海外サブセンターを代表する研究者たち

アプローチを呼びかけた。

ブッサコン・ビンソン氏(チュラロンコン大学准教授)は、バンコクに20世紀COE研究拠点の都市文化研究センター(UCRC)サブセンターとして開設された2002年以降の経緯を紹介し、独自の資金を獲得しつつ若手研究者の相互交流を促し、国際フォーラムの開催や英文査読誌の刊行など精力的な活動の自律的な展開を報告した。

ニコラス・ワーロウ氏(ガジヤマダ大学講師)は、インドネシアの文化的中心ジョグジャカルタと重工業中心のチレゴンという2つの中規模都市を比較検討し、草の根の運動が都市を形成する点を見出した。排除されることが契機となり、「コモンの空間」をつくる人々の力について述べた。

スージー・ゴールドスミス氏(メルボルン大学主任研究員)は西部メルボルンを事例に、教育、住居、健康、雇用など社会的排除の諸指標を分析したが、国家・地方等の行政単位の政策的アプローチは必ずしも功を奏しておらず、既往研究に欠けていた「事業主体としての人々」への支援がいかに可能かを考えねばならないことを指摘した。

Program

- Jong Gyun Seo (Senior Research Fellow, Korea Center for City and Environment Research)  
Small Business/Big Change
- Ying-Fang Chen (Professor, East China Normal University)  
Help Systems of Housing / Residence Life in Shanghai: Our Survey and Ideas
- Liling Huang (Assistant Professor, National Taiwan University)  
Cultural Practices, Urban Redevelopment and the Marginalized Urban Poor in Taipei
- Wing-Shing Tang (Professor, Hong Kong Baptist University)  
Networking the Asian Urban Studies: An Inside-out Perspective
- Bussakorn Binson (Associate Professor, Chulalongkorn University)  
Deepening Urban Culture Research through the Exchange Program between Bangkok and Osaka
- Nico Warouw (Lecturer, Gadjah Mada University)  
Urban Social Inclusion in Indonesia Practices of the Citizens
- Suzy Goldsmith (Senior Research Fellow, The University of Melbourne)  
A Business-centric Approach to Sustainable Urban Regions

総合討論ではポスト植民地主義的状况を経て克服すべき方法論的課題が議論され、アジア発の都市研究ネットワークをいかに構築するか、フロアからも積極的な期待と展望が語られた。これに応じて中川はアジア・アーツマネジメント研究機構の確立に向けた取り組みを提案した。

■櫻田和也(都市研究プラザ特任講師)



## 特集 第1回 国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」 国際学術シンポジウム「文化創造と社会包摂による都市の再興」

## SPECIAL The 1st International Roundtable Meeting 'Towards the Century of Cities' International Symposium 'Urban Regeneration through Cultural Creativity and Social Inclusion'

In the afternoon of Dec. 16 (Thu.) Session 4 was held which was a conference for specialists titled "Net working the Asian Urban Studies" This was the first roundtable conference where all the overseas sub-centers developed by the Urban Research Plaza in the Asia-Pacific region and was coordinated by Prof. Shin Nakagawa. Reports on projects in urban studies from the field were presented by Dr. Jong Gyun Seo (Seoul), Prof. Chen Ying-Fang (Shanghai), Dr. Li ling Huang (Taipei), Prof. Wing-Shing Tang (Hong Kong), Assoc. Prof. Binson Bussakorn (Bangkok), Dr. Nicolaas Warouw (Yogyakarta) and Dr. Suzy Goldsmith (Melbourne), and a variety of approaches were shared. In the general discussion, methodological issues that need mastering in moving beyond post-colonial circumstances were discussed, and we talked about expectations and prospects concerned with how to build an Asian-based urban research network in which there were many positive messages from the floor.

### セッション5 研究発表

#### URPリサーチフェローによるプレゼンテーション Session 5: Presentations by URP Research Fellows Research Presentations

国際シンポジウム最終日12月17日(金)午前、全泓奎(都市研究プラザ准教授)のコーディネートで、都市研究プラザの若手研究員による研究報告が行われ、4つの研究ユニットから各1名の博士研究員が選ばれ、研究成果を発表した。

高島知佐子(第2ユニット)は、日本の伝統芸能である能楽・歌舞伎・文楽における、運営の形態と後継者育成及び鑑賞者開発の仕組みについて実態を報告し、これら伝統芸能が生き残るためには、実演者の拡大や鑑賞者の開発が求められ、教育方法が重要になることを述べた。

ハンヌ・クルンサアリ(第4ユニット)は、リサイクル産業のネットワーク型事業において会計が組織の能力育成やネットワークの発展に果たす役割に関して、日本の中古品販売店のフランチャイズチェーンのケーススタディを報告した。会計によって組織間の相互作用が媒介され、関係者が統合されて様々な能力が補完されることを述べた。

金淳植(第1ユニット)は、コミュニティベースのアート活動に関して米・韓の3つの事例を紹介し、それぞれの活動の内容と特徴、支援する社会的な仕組みを報告した。資金確保や管理運営で適切に役割を果たすアクターが存在しており、それらのネットワークによって公的支援に依存しない支援の仕組みが構築されていることを述べた。

葛西リサ(第3ユニット)は、近年増加している母子世帯の生活及び住まいに関して、アンケート調査の結果を報告した。子供の生活環境や親族の支援を頼って居住する地域を選択した上で職場に近い入居可能な住宅を求める実態を示し、住宅支援策とのミスマッチがあることを述べた。



若手研究員による研究発表の様子

### Program

Chisako Takashima (GCOE Research Fellow (PD), Osaka City University)

Audience Development and Successor Training in Japanese Traditional Performing Arts

Hannu Kurunsaari (GCOE Research Fellow (PD), Osaka City University)

Accounting in Recycling Network Enterprises: Reflections on Capability-building

Sunsik Kim (GCOE Research Fellow (PD), Osaka City University)

An Experimental Case Studies of Social Support System for the Community-based Art

Lisa Kuzunishi (GCOE Research Fellow (PD), Osaka City University)

Problem of Mismatch between the Process of Securing Permanent Housing and Housing Policy for Single Mother Households in Japan

Commentator: Hyun Bang Shin (Lecturer, LSE, University of London))

Coordinator: Hong Gyu Jeon (Associate Professor, Osaka City University)

こうした若手研究員の報告に対し、申鉉邦氏(ロンドン大学LSE Lecturer)から内容に関する質問や新たな分析の視点等に関するコメントをいただき、応答がなされた。

■米野史健(都市研究プラザ博士研究員)

In Session 5 on Friday morning Dec. 17, there were presentations of research results by four young researchers of the Urban Research Plaza representing each of the four units. The session was coordinated by Assoc. Prof. Hong gyu Jeon (URP).

In addition, in response to each of the researcher's reports, there were questions on the contents and comments on new perspectives for analysis from Dr. Hyun Bang Shin, lecturer at the London School of Economics.

### セッション6 パネルディスカッション

#### 国際学会AUCがフォローする視座とその展望

#### Session 6: Perspectives of the AUC and its Prospects Panel Discussion

12月17日(金)午後、国際シンポジウムの最終のセッション6「国際学会AUCがフォローする視座とその展望」と題したパネルディスカッションが行われ、佐々木雅幸(都市研究プラザ所長)と加茂利男(都市研究プラザ特別研究員(初代所長)/立命館大学教授)のコーディネートで、セッションリーダー全員が各自のセッションの内容に振り替えながら、まとめや今後の論点について提起を行った。これによって得られた見識に基づいて、AUCの活動と具体的なフォローアップについての可能性や方法が討議された。

まず加茂氏は、21世紀の都市社会の崩壊の危機に対し、文化的創造性と社会包摂の結びつきが重視されている今日において、様々な困難を乗り越えるために国際学会AUCが果たす役割が大きいことを述べ、新しい次元の都市研究の課題について問題を提起した。

続いて、セッション1のファシリテーター水内俊雄(都市研究プラザ副所長)は大阪における居住分化の系譜をさまざまな地図で説明し、そのコンテクストから、都市貧困層の出現とそれに効果的に対応した社会運動の連携を明らかにした。さらに、都市研究プラザ・現場プラザの立地を大阪の都市構造や多様な社会的課題等と結びつける目論見を解説した。

セッション2のコーディネーター岡野浩(都市研究プラザ副所長)は国際学術誌「City, Culture and Society」のターゲットを発表し、アジアとの関係や構築してきたネットワーク組織(例えば海外サブセンター、AUC)のバックアップとしての取り組み方等、今後の運営のあり方について提案を行った。

セッション3のコーディネーター長尾謙吉(経済学研究科教授)は、各発表のポイントをまとめ、学界の批判的な機能や視点を強調した。特に採り上げられたのは、クリエイティブ・クラスとクリエイティブ・シティの相違と都市研究のあり方であった。さらに、大学における人的資本の脆弱な状況に代表される現実をもとに問題提起を行った。

セッション4の発表者の1人、ゴールドスミス氏(メルボルン大学主任研究員)は各海外サブセンター担当者の発表をまとめて、その共通点を提示した。その中で、社会科学の学問としての特性を活かしたアジアの都市論からアプローチの可能性、ネットワーク化していくことの重要性等を指摘した。さらに、それら課題に対し、CCSがプラットフォームになる必要性を強調した。

セッション5のコーディネーター全泓奎(都市研究プラザ准教授)はグローバルCOEプロジェクトやその研究員に係る制度を説明し、テーマがそれぞれ異なっても、頻繁に行われる協働研究の活動のメリットについて詳しく述べた。セッ



フロアを巻き込んだ白熱した議論

ションコメントの申氏のコメントを踏まえG-COE研究員の研究活動を評価した。

最後に、佐々木のコーディネートで、総合討論を行ない、ゲストスピーカーとフロアの方で積極的に更なる議論に関わり、創造都市と社会的包摂を組み合わせたアプローチをめぐる理論的な課題の発展と今後のCCSの運営とその展開について多様な視点から語り合われた。特に海外の著名な研究者からの投稿と研究者のネットワーク構築の必要性、アジア都市論の方向性、アジア都市の概念化や都市研究の共通基盤について多様な議論が行われた。CCSの運営に関しては、マーケティングの具体的な戦略についても意見が交換され、国際学会AUCの設立と展望が重要な支えになることを確認することができた。

■コルナトウスキ・ヘラルド(G-COE特別研究員)

For the last session in the afternoon of 13 December (Fri), with the coordination by Prof. Masayuki Sasaki and Prof. Toshio Kamo, all the session leaders reflected on the presentations and discussions held in their sessions. The coordinators discussed the future role of the Association for Urban Creativity (AUC), its scope and its potential for supporting the URP's international academic journal "City, Culture & Society" following the session leaders' summaries. The discussions after the tea break focused on how to manage the demanding performance targets that Elsevier has set out for CCS.

The establishment of the AUC will be a significant first step to effectively address these topics and to become a supporting medium for the challenges that lay ahead for CCS.



参加者たちの記念撮影




## 10 豊崎プラザ 大阪らしい長屋と路地の再生実験

梅田に近い都心にあり、大正年間に建設された主屋と長屋建の貸家群、路地が残る一郭です。オーナーと大学が共同して、老朽化した木造住宅の耐震設計、快適な住生活、住宅経営、居住環境の整備を柱に、都市住宅としての長屋の再生モデルを目指し、居住文化の継承や市民の生涯学習なども含めて、創造的なまちづくりを進めています。

### 写真展「日縫り」

11月23日（火）～11月27日（土）の5日間、豊崎プラザ・南長屋において写真展「日縫り」が開催された。この写真展は都市研究プラザと豊崎プラザの改修に関わった大阪市立大学生活科学研究所のOB・OG及び学生で構成された「日縫り」実行委員会が共同開催したものである。会場には「日常の風景」をテーマとした写真パネルが展示され、古い柱や土壁とカラフルな写真がみごとに調和していた。来場者数は200人を超え、近隣の長屋住人も連れ立って来場され、大変好評であった。「日縫り」実行委員会のメンバーは、建物改修の設計や実習に携わった者で、中には長屋の住人になった者もいる。この写真展は、近隣を含めた多くの人に長屋の良さやその可能性を発見・発信しようと、彼らが自発的に企画したものである。このことは改修に関わりストック活用力を身につけた学生たちが、外に向かって活動を始めた第一歩であり、その意味でも今回のイベントは大変意義深いものになった。

■上原 充（豊崎プラザ研究補助スタッフ）



現場プラザ短信1  
土壁と柱の上にレイアウトされた写真


## 和泉プラザ 「地域の歴史的総合調査」の取り組み

### 企画展「八坂町・信太村と信太山丘陵」

2011年1月8日（土）、和泉プラザが協力・連携して活動を行っている和泉市教育委員会と和泉市の主催で、いずみの国歴史館（和泉市）において、和泉市と旧八坂町・旧信太村の合併50周年冬季企画展「八坂町・信太村と信太山丘陵」が開幕した。和泉プラザでは、富秋町を対象に実施した2010年度の和泉市合同調査で旧信太村の役場文書を調査しており、その成果が本企画展に反映されている。展示では、旧両町村役場の公文書や上代町での合同調査（2006年度）で発見された信太村村長日誌などから、合併に至るまでの議会の動きや地域社会の様子が明らかにされている。企画展は3月6日（日）まで行われる。

なお、1月30日（日）に同館で、塚田孝（文学研究科教授）による記念講演会「『土農工商』の幻！？ 南王子村からみた近世身分社会」が開かれる。また、信太地域にある信太の森ふるさと館（和泉市）でも、関連するミニ展示や歴史講座が開催される。また、2月13日（日）に、三田智子（G-COE特別研究員）が「郷境と村々の成立 信太郷における近世村」と題して歴史講座を行う。

■久角健二（和泉プラザ研究補助スタッフ）



現場プラザ短信2  
企画展の展示の様子(江戸時代の信太山絵図)

## クリエイティブセンター阿波座


クリエイティブな都市型産業の連携推進と政策研究の拠点

### 多様な人・情報が交差する「創造の場」の社会実験 ークリエイティブサロンの開催

2010年8月から毎月1回、創造活動の発展を促すような「創造の場」の生成と地域とのゆるやかなネットワーク形成のための社会実験としてクリエイティブサロンを開催している。同サロンは、クリエイティブセンター阿波座を中心に、入居しているビル（ACDCビル）の地下ギャラリー、そして、周辺地域のクリエイティブ拠点（カフェギャラリー等）を会場に、創造性と経済と空間をテーマとして、プランナーによる建物の創造的な活用を通じた地域活性化の事例や、脚本・演出家から役者の演技力を生かした企業研修プログラムの紹介など、多様な報告と対話で構成される。

参加者は、営利・非営利、ジャンル、年代、キャリアと多様であり、15名程度の少人数であることから密な交流を図っている。開催後のアンケート結果をみても、参加動機として自身と異なるジャンル・年代との交流への期待を挙げる人が多く、参加後の満足度は高いという傾向が表れている。

■上野信子（G-COE特別研究員）



現場プラザ短信3  
カフェ・ギャラリーで作品の解説を聞く参加者

## 20 まちのコモンズ2010 船場建築祭5


Urban Commons 2010', The 5<sup>th</sup> Senba Architectural Festival

2011年11月1日（月）～5日（金）の5日間、まちのコモンズ実行委員会と都市研究プラザ船場アートカフェの共催で「まちのコモンズ2010 船場建築祭5」を開催した。近代建築の創造的活用をテーマに始まった船場建築祭としては5回目、まちのコモンズとしてコンセプトを拡張してからは3回目となる。北船場の地域活性化を目的とし、街に潜在する空間・文化資源の活用と街の魅力を発信するイベントで、都市空間の文化的な共有意識による都市の新しいコミュニティの可能性を考えようとするものである。

今年は昨年の倍となる20のプログラムを期間中に実施した。そのなかで主となるのが近代建築や公開空地等の活用であり、重要文化財である綿業会館（1931年）や明治時代の貴重な建築物であるオペラ・ドメヌ高麗橋（1912年）、浪花教会（1930年）と芝川ビル（1927年）を会場にシンポジウムやコンサート、各種レクチャーなどを開催した。公開空地の活用では、ホテルの公開空地でのアジア音楽ライブに加え、今年は高層タワーマンションの公開空地でオープンカフェを開催した。また新しい試みとして、コインパーキングで仮設の屋台を設営したオープンパブを実施した。既成市街地の衰退と関連して取り上げられることの多いコインパーキングの活用法を示すものである。

船場の地域性を活かしたいいわゆる老舗とのコラボレーションも多い。例年人気の料亭・吉兆でのおもちつき、1781年創業の塩昆布で有名な神宗での文楽レクチャー、そして元

■高岡伸一（都市研究プラザ特任講師）



現場プラザ短信4  
コインパーキングでのオープンパブ

## 船場アートカフェ


芸術によるコミュニティ再構築

### プライベート美術館@大阪・南船場

2010年12月1日（水）～25日（土）、エイブルアート・カンパニー/財団法人たんぼの家の主催で「プライベート美術館@大阪・南船場」（協力：船場アートカフェ他）が開催されました。この企画は、障害のある人のアートを南船場の様々なスペースに展示し、まちに集う人々の間にコミュニケーションを生み出そうとするものです。2回目の開催となる今回は、神社やアパレルショップ、カフェ、雑貨屋など14カ所に、計50点もの作品が展示されました。

各所に展示される作品は、お店の人と作品との「お見合い」によって選ばれました。南船場は、個性豊かなお店が多いまちとしても知られています。今回「プライベート美術館」に参加したお店も、ギャラリーを併設する雑貨屋やレトロビルの一室にある古本屋など、じつに多彩。様々なスペースがアートを介してつながることで、まちの中に新しい「出会い」が生まれていました。ビジネス空間とアートとの親和力を高めるこのようなプロジェクトを通じて、まちの人やアーティストなど、船場に関わる人々の間に様々な「対話」が生まれ、広がることが期待されます。

■石川 優（船場アートカフェRA）



現場プラザ短信5  
空間に調和する展示作品

Over a period of five days from Nov. 1-5 (Mon-Fri), 2010, the event "Urban Commons 2010", the 5<sup>th</sup> Senba Architectural Festival," aimed at the neighborhood revitalization of Kita Senba, was held under joint sponsorship by the Urban Commons Executive Committee and the Urban Research Plaza. Using early modern architecture and the public open spaces of buildings in the neighborhood and old established storefronts as venues, 20 different programs were put on including a symposium, concerts, a cafe, and a variety of lectures. The attractions of the Kita Senba neighborhood's history and culture were conveyed to a wide general audience.



## 3U 第2回 日韓社会的企業セミナー 社会的排除をなくし、社会的事業所(企業)をすすめる日韓の交流 The Second Japan-Korea Social Enterprise Seminar

2010年11月20日(土)、21日(日)の2日にわたり、都市研究プラザ第3ユニットはNPO法人共同連等との共催により、第2回日韓社会的企業セミナーを開催した。

これは前年の11月の3日間、ソウルで開かれた第1回日韓社会的企業セミナーを契機としたものである。韓国では2007年7月より社会的企業育成法が施行され、多くの社会的企業が誕生している。その後日本では「社会的企業促進法」制定の検討が進められていたことから、6月に中国で開催された第3回アジア障がい者国際交流大会の際に、日本での法制化の進展を願って第2回交流を日本で開催することとなった。

本セミナーは、両国の社会問題に対応し得る社会的企業の育成に資すると共に、都市研究プラザが中心となるG-COE事業にも貢献するであろうことが期待される。

初日(11月20日)は、大阪市立大学学術情報総合センター10階ホールにて、日本側120名と韓国側60名が参加し、全体報告が行われた。それに先立って日本側主催者の斎藤縣三氏(共同連事務局長)と韓国側主催者のキム・チョンヨル氏(韓国障害友権益問題研究所長)により基調報告が行われ、日韓社会的企業セミナーの開催経緯と、第2回セミナーのねらい、日本における社会的企業をめぐる動きや法制化について報告があった。それを受けて韓国側からは、韓国の社会的企業概念や現況報告、社会的企業育成法成立後の社会的企業の現状について報告がなされた。

次に福原宏幸(都市研究プラザ特別研究員/経済学研究科教授)から「日本における就労困難者支援と労働統合型社会的企業の役割:労働市場研究からのアプローチ」について、チャン・ウォンボン氏(聖公会大学校社会的企業研究所研究教授)からは「再分配・市場交換・互恵的な複合経済として社会的企業インセンティブ構造の現実と課題」について、それぞれ全体報告がなされた。



学術情報総合センターでの全体報告の様子

翌日は初日の報告を受け、「障害者の労働参加」「社会的事業所の法制化」「社会的排除をなくす取り組み」「社会的排除をなくす支援のあり方」の4つのテーマの分科会に分かれてセミナーが行われた。



第4分科会(社会的排除をなくす支援のあり方)の様子

昨今、就職困難者をはじめとして、ますます労働市場の硬直化が進んでいる。そのような中で、社会的企業、あるいは社会的事業所というアプローチから新たな経済的・社会的突破口が開かれれば、雇用統合による包摂社会への転機となることも期待できよう。それに向けた日韓の取り組みや実践的成果の共有の場が、既に2回の交流を通じて積み上げられており、さらに今回は中国からの参加者(延吉市肢体障害者協会会長のイ・チュンジャ氏)も増えた。

本セミナーでは社会的排除に取り組む社会的企業の東アジアの連帯とネットワークが網の目を広げつつある様子がうかがえ、今後の展開が期待される。

■全泓奎(都市研究プラザ准教授)

Over two days, Nov. 20 and 21, 2010, the Urban Research Plaza's Unit 3, in joint sponsorship with the league of NPO foundations, held the second Japan-Korea Social Enterprise Seminar at Osaka City University.

This was a continuation of the first seminar which was held in Seoul in 2009, and was held in hopes of the enactment of the "Social Enterprises Office Promotion Law" which is under consideration in Japan. In this seminar, on the first day there were reports made to the entire group, and on the second day we divided into 4 separate topical groups and carried out discussions. While this will contribute to the fostering of social enterprises that can respond to social problems in both countries, at the same time it is anticipated that it will also contribute to the G-COE work of which the Urban Research Plaza is the center.

## 西成プラザ 生活困難支援の老舗西成での実践を世界発信

現場プラザ短信5

### 簡易宿所の実態調査

大阪市西成区あいりん地域には簡易宿所と呼ばれる1泊1000円ほどの宿泊施設が建ち並ぶ。日雇労働者のまちとして知られるが、近年は生活保護受給者や、バックパッカーなどの外国人旅行客が集まるまちとして、変化しつつきている。

この地域の大半を占める簡易宿所に注目し、都市研究プラザでは西成プラザを拠点に、2009年夏から実態調査を進めている。簡易宿所経営者への聞き取り、帳場と呼ばれる簡易宿所のフロントへの聞き取り、利用者へのアンケート調査、さらに利用者のライフストーリーの聞き取りも実施し、様々な角度から簡易宿所の全貌に迫ってきた。

中間報告では、労働者34%、生活保護受給者45%、年金生活者11%、旅行者9%と、生活保護受給者の急増が確認できるとともに、少額の年金で生活する者も見られた。

このうち利用者155人について生活状況などについてアンケート調査をおこなったところ5年以内にあいりん地域にきた人が3割を超えており、リーマンショック以降に流入した生活保護受給者が目立つ結果となった。一方で、日雇以外の労働者や国内外の旅行者など新たな利用スタイルも出現しており、簡易宿所の利用層も多様化していることがわかってきた。

今後、この調査は大阪府簡易宿所環境衛生同業組合50年誌での取りまとめや、帳場担当者の座談会などを計画している。ただ地域の実態把握だけにとどまらず、まちづくりのきっかけとして一端を担えるような働きかけをしていきたい。

■平川隆啓(G-COE特別研究員)

釜ヶ崎をはじめとする西成区北部には、社会的に有利でない状況が蓄積しています。釜ヶ崎の一角に集会・研修のスペースを持つ本プラザは、多くの公的組織、NPOと連携し、地域の諸活動に関わりながら、都市問題の本質を社会に伝える、実践的な研究ネットワークから構成されています。

## 大淀プラザ ホームレス支援から地域のネットワーク/人材の創造

現場プラザ短信6

### 「AHA!天神橋」アーカイブ事業

大淀プラザは今年度、おおよど縁パワーネット(暫定代表:水内俊雄)との共催で「AHA!天神橋」と題したおおよどアーカイブ事業を実施しています。地元の豊崎東連合振興町会の協力を得て、大阪市立大学の新産業創生研究「映像資料コンテンツの作成と活用の事業化モデル」(研究代表者:中川真 都市研究プラザ兼任研究員/文学研究科教授)の一部として行われる地域再生の試みです。

おおよどアーカイブ事業では大淀プラザの位置する天神橋筋六丁目周辺地域の古い映像を集めてアーカイブ化し、記憶をほりおこし共有の資源として地域内外のネットワークづくりのために研究・再活用することを目的としています。新世界地域での8mmフィルム収集、浪速区地域福祉アクションプラン事業をはじめこの分野で草分け的な実績を有するNPO法人記録と表現とメディアのための組織[remoj]の協力を得て実施することができました。

既に10月25日には10名ほどが集い天神橋アートセンター関係者の8mmフィルムを鑑賞、11月3日には国分寺にてお寺保有の8mmフィルム鑑賞会を開催し、15名ほどの参加者が懐かしいフィルムを再発見する体験を共有しました。年末年始には回覧板でも呼びかけ今後さらに地域の人々にとって馴染み深い映像を収集、持ち主に了解を得たうえでDVDに変換し、都市研究プラザの研究に活用するとともに、春には大淀プラザにて地域にひらかれた公開鑑賞会を開催の予定です。

■櫻田和也(都市研究プラザ特任講師)

旧大淀区天七に立地し、近接して更生施設や一時保護所、ホームレス自立支援センターの大阪市の日雇、ホームレス支援施設があります。元銭湯を利用した本プラザは、ホームレス現象のオブザーバトリ(観測所)として後方支援にあたり、同時に広い空間を利用した、アートによる地域ネットワーク創造、人材創出の拠点をめざしています。

## 阿倍野プラザ 近代長屋を活用した居住福祉支援の試み

現場プラザ短信7

### 支縁のまちサンガ大阪発足集会

2010年12月5日(日)、阿倍野プラザは「支縁のまちサンガ大阪」に協力し、天王寺区下寺町の應典院本堂ホールにおいて、発足集会を行なった。このサンガ大阪は、「社会的困窮にある人々が一人でも多く尊厳ある葬送によって見送られ、また生前に相互を仲間として交流が生まれるよう取り組むことを目指し」ている。

第一部の設立総会では、代表に真宗大谷派僧侶の川浪剛(阿倍野プラザ研究補助スタッフ)、副代表に浄土真宗本願寺派僧侶の木村慶司氏(大阪市仏教青年会会長)を選出した。

引き続き第二部では、NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事の、うてつあき氏による『つながりゆるりと』と題された記念講演があった。もやいは、広い意味でのホームレス状況にある人々がアパート入居の際の連帯保証人を提供している。

その活動の中で、アパート入居者の死に多く立会い、斎場での尊厳のない扱いに憤りを感じ合同墓を建立したこと、そのことにより見送る側の安心が生まれたことなどを語った。

■川浪 剛(阿倍野プラザ研究補助スタッフ)



うてつあき氏による講演